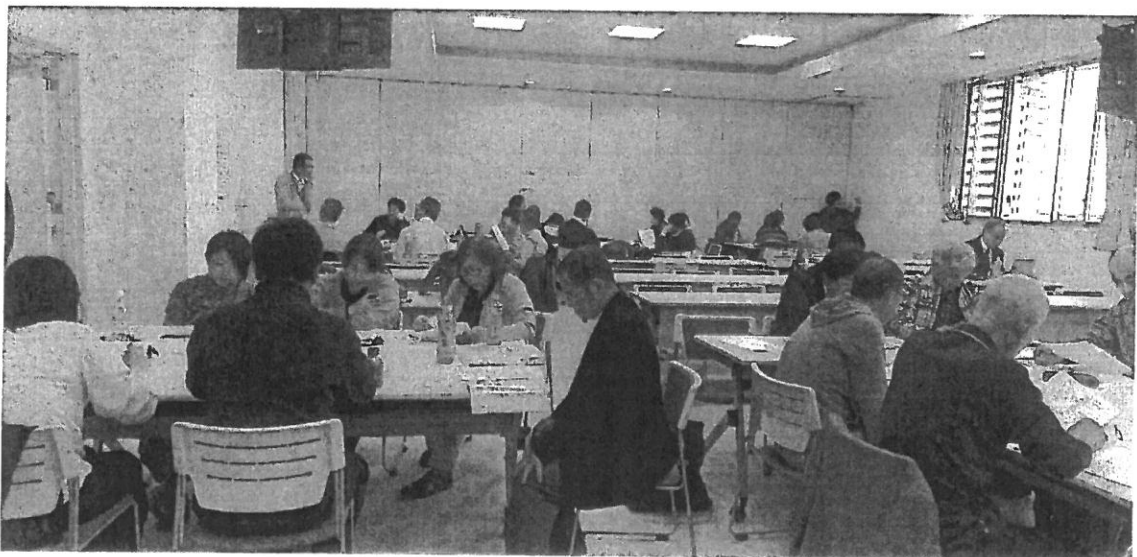
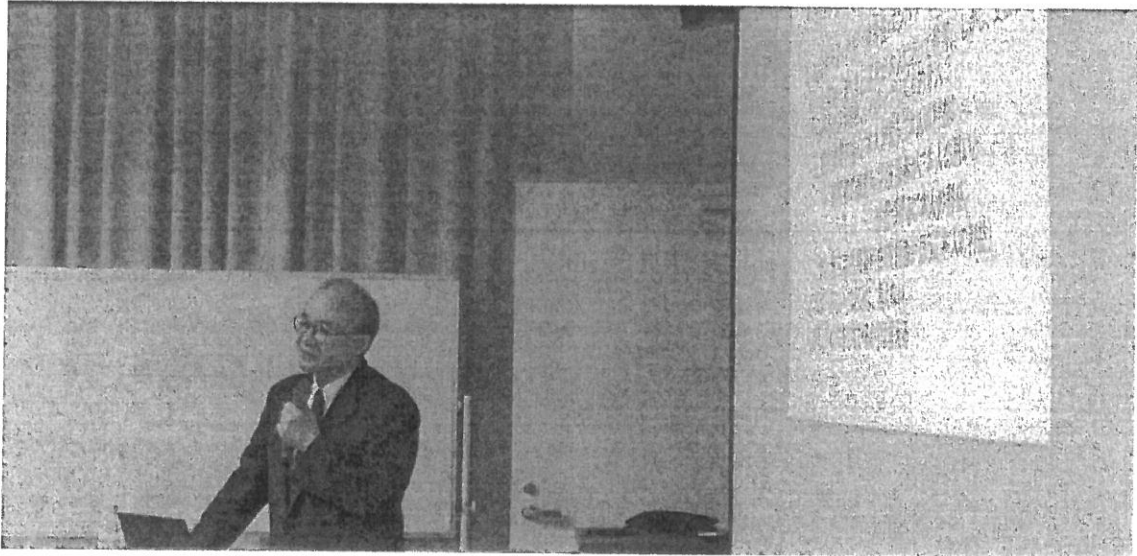


研修概要

1. 日 時 令和元年10月30日(水) 10:00～16:30
2. 会 場 甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」 多目的室2
3. 参加者数 85人(甲賀市23人、湖南市5人 市外35人、県外22人)
4. プログラム
 - (1) 講演「権利擁護の基本と意思決定支援」
講師：佐藤 彰一さん
(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大学法学部教授・弁護士)
 - (2) ワークショップ「未来デザイン手法を活用した事例検討」
ファシリテーター：伊東 かおりさん
(NPO法人 知多地域成年後見センター外部スタッフ)
講師：今井 友乃さん
(NPO法人 知多地域成年後見センター、全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)
5. 報 告

作成者 : お名前 桐高 とよみさん



権利擁護支援従事者研修（10月30日・甲賀市まちづくり活動センター）
アンケート集計結果

回答数：66

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村					
滋賀県	46名	甲賀市	13名	湖南市	2名	日野町	1名
三重県	18名	大津市	11名	草津市	2名	無記入 (滋賀)	3名
京都府(京都市)	1名	彦根市	3名	東近江市	1名	名張市	16名
		守山市	3名	栗東市	1名	伊賀市	4名
		高島市	2名	愛荘町	1名	津市	1名

※無記入 1名

(B) 職種(所属) ※複数回答可

1、自治体	3名
2、社会福祉協議会	26名
3、福祉職(高齢)	10名
4、福祉職(障害)	2名
5、法律職	8名
6、AS-J会員団体	9名
7、その他	9名(NPO法人2名、法人後見NPO、ソーシャルワーカー、病院MSW、支援員、無職、無所属各1名)

※無記入 2名

2) 本研修は何でお知りになりましたか? ※複数回答可

1、チラシ	30名
2、AS-Jホームページ	3名
3、関係機関	29名
4、友人・知人	1名
5、その他	4名(職場3名)

※無記入 2名

3) 講演「権利擁護支援の基本と意思決定支援」についてご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	46名
2、良かった	20名
3、よく分からなかった	0名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 代行決定、意思決定について考えさせられた。意思決定支援を心がけていきたいと思う。
- ・ 佐藤先生の話を生で聞くことができ嬉しいです。
- ・ 権利擁護支援の考え方の基本を学ぶことができました。
- ・ 大変分かりやすい講義でした。
- ・ 大変分かりやすく説明して下さったので、よく分かりました。
- ・ 代行決定は支援者に能力がないから行うものというところを心に留めたいと思います。
- ・ 正義とケアの違いは興味深かった。また、後見業務に迷ったときは、ガイドラインをぜひ参考にしたいと思った。
- ・ 法的な権利擁護支援の話が聞いて良かった。
- ・ 分かりやすいお話でした。
- ・ 結局、後見人次第ということなのでしょうか。
- ・ 佐藤先生のお話は、いつも大変勉強になり自分への戒めにもなります。ありがとうございました。
- ・ 基本的な事について認識することができた。
- ・ 権利擁護の考え方が、最近変わってきたのだと勉強になりました。意思決定支援の理想と現実のギャップについても理解できました。これからの日本がどう成年後見制度を運用していくのかCAPがどうなるのか、など自分なりに改めて考えていきたいと思っています。
- ・ 権利擁護の哲学みたいな考え方の違いを知りました。意思決定支援と代行決定のことも詳しく知りました。松江事件、これからもありそうで心配です。
- ・ ”能力がないと思い込んでいる“という言葉がとても心に残りました。どこかでそう思ってしまう部分が自分にもあったのかもしれないので、そこに気が付けたことがこれから先に繋がればいいなと思いました。
- ・ 公務員の立場でソーシャルワーカーとして仕事をしてみたけれども挫折した経験があります。今日の講義で教わった「正義の倫理」（公務員として考える公平性とか何かそういうの）とケアの倫理（ソーシャルワーカーとして色々思うところ）で上手く折り合いをつけられないことが、ひょっとしたら苦しかったのかもな、と気づきました。でもそれは悪いことじゃないと仰って下さって救われました。
- ・ 普段の支援から振り返る機会となつてとても良かったです。分かりやすいと思いました。

- ・ 現場でも遭遇する難問の考え方を整理して語って頂けたと感じた。
- ・ 能力存在推定（パラダイム転換）基礎基本として支援を決定していくという考え方には共感しました。「正義の倫理」と「ケアの倫理」を区別して考え方を整理することの重要性にはなるほど、と気づかされました。日本の制度が「人形浄瑠璃」の黒子と「歌舞伎」の黒衣を同時に役割として求めていることの矛盾がよく分かりました。
- ・ 権利擁護について考え方の整理をさせて頂きました。
- ・ 分かりやすくよかったです。
- ・ 名張社協支援員です。こういう講習会が今日初めてでした。支援員として未熟者ですが、今後の支援活動に活かしていけたらと思います。大変勉強になりました。
- ・ 権利擁護従事者ではなく、関わりのある立場のため、参加させていただきました。
- ・ 意思決定支援に必要な3つの要素が大事だという事がよく分かった。
- ・ 講師の先生から紹介された書籍を読みたいと思います。意思の決定には関係者が十分話し合い、進めていきたいと思います。
- ・ 代行決定するのは支援者が利用者の意思をくみ取れないからという言葉が印象的だった。
- ・ 佐藤先生の講演は何度か聴かせて頂いていますが、いつも自分の活動を振り返る機会をもらえる内容です。自分では「聞き取っているつもり」「やっているつもり」「ちゃんと面会に行っているつもり」という他者から目に見える活動をして満足していないか、今一度自分に問いかけたいです。寄り添うことが全てではないように思っています。難しいです。
- ・ 私たち権利擁護支援従事者はいったい何をしているのかという根本的なことを整理してお話して頂き、良かった。
- ・ 考え方の違いが興味深かったです。
- ・ 難しかったです、分かりやすく説明して下さい良かったです。日々、代行決定しかできていないかも…と反省しています。
- ・ 「能力存在推定」という考え方が基本という話、今まで高齢分野で支援していましたが、認知症という診断と物忘れの症状、エピソードなどでご本人の判断能力が不足しているという認識のもと動いていました。「能力存在推定」という考え方に立つと、支援者は非常に悩ましいと思います。しかし、この過程を経る必要があると理解しました。
- ・ 意思決定支援の在り方を考えさせられる事例を聞くことができ良かった。

2、「良かった」

- ・ 分かりやすいジレンマの事例など考えやすい構成で大変勉強になりました。
- ・ 正義と倫理の峻別が自分の中でできているようで分かっていなかったため、すっきりと整理ができました。
- ・ アドヴォカシーの要素についてかみ砕いて解説いただいたこと、法律の世界と福祉の世

界での捉え方の違いがよく分かった。正義の倫理とケアの倫理の狭間で自分は揺れていたんだなあという事を再確認した。

- ・最後の司法書士の後見業務について考えさせられました。
- ・今は本人の意思決定を尊重するというのは権利擁護の面だけでなく全てにおいて大切であると思っはいますが、ついついこちら（支援者側）の枠組みに当てはまるような決定をしてしまっているところがあると気づかされました。
- ・弁護士の方の早い言い回しで少々聞き取れない状態だったのが残念。（高齢のため）
- ・前半は哲学的な話で少し難しく感じたが、意思決定支援について貴重なお話が聞けて良かったです。
- ・昨年も奈良で受講させて頂きました。一足飛びにはできませんが、常に意思決定支援ができるように私本位にならないように気を付けます。
- ・権利擁護支援、という言葉に少しずつですが、イメージが持てました。意思決定支援の方法も少し分かりました。
- ・アドボカシーの3つの要素と代行決定・能力存在推定の話聞いて、アセスメントと情報共有の大切さを知った。

4) ワークショップ「未来デザイン手法を活用した事例検討」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	37名
2、良かった	26名
3、よく分からなかった	3名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 実態事例の課題をグループワークに分かれ、言いたい放題出し合っとてもたのしかったです。
- ・ 権利擁護の進め方について大変参考になった。ありがとうございました。
- ・ 大変複雑な事例でみんなで真剣に検討し、とても疲れました。とても良い手法だと思います！お疲れさまでした。
- ・ 同様のケースワークも本手法をイメージして支援者が考えていけば、必ず良い支援に繋がると確信しました。
- ・ 「多問題を考える」とか「包括的に」とかで何だかスマートに折り合いを付けようとして、大した支援立案ができていないなあーと振り返ることができました。
- ・ 自ら考える支援では、現実のことしか考えておらず、未来をデザインするという発想が全くなかったけれど、本人の可能性というのはいくつもあり、その強みを引き出し、明るい未来を作ることが支援では必要になるということを改めて考えさせられました。
- ・ 可能的未来予測については福祉職そのままの姿勢が出たように思います。視点を換え

て未来を予測してみることの大事さ、大切さだと思いました。どうしても実現性を考えているのだと思います。

- ・ 可能的未来を考えると対象者にとってのパラダイスな状態ってどんな生活かをグループ（チーム）で考えるプロセスが大事だと思った。
- ・ 初めて聞いた手法でしたが、大変勉強になりました。今後、仕事に活かしていきたいです。
- ・ 皆さんの協力で無事終了できました。ありがとう
- ・ 色々な考え方が見れたのと可能的未来という普段では出てこない発想を知れて良かったです。
- ・ 発想の転換ができたことと、グループのメンバーさんより得させていただいたことが多かったことがあり、本当に良い経験となりました。
- ・ 「未来デザイン手法」の未来予測の中の「成り行き未来」「可能的な未来」とを分けて考える手法が斬新で自分の支援プラン作成時にも取り入れてみようと思った。
- ・ 未来デザイン手法を通して、事例検討ができ、担当している利用者や新規相談時のアセスメント等に役立てていきたいと思う。
- ・ 物事の捉え方の視点を無理やり広げさせられたような手法でした。とてもしんどかったのですが、終わったときは、「面白かった」と思いました。とてもいい経験でした。
- ・ 事例を通して解決法を考えていく手法を学ぶことができ、良かった。
- ・ 難しかったですが、パターンを崩して考えてみるってことで、またしてみたいです。
- ・ 新たな気づきができる検討会でした。本人の強みを見る、未来デザインをすることで支援者もワクワクできると思いました。
- ・ 関係者のミーティングをするのに話の流れを作れる、グダグダ長引かないためにもいいと思います。最初に理念を考えるのがいいと思います。
- ・ 時間が短く感じた3時間。色々な発展的意見が出た。現実には悲観的な状況だが、明るく光のある意見が出た。
- ・ 時間があっという間に過ぎ、楽しくワークできました。この様な機会を地域においても開催したく思います。理念から始めて、要例を進めていく、本当に素晴らしい体験をありがとうございました。
- ・ 可能性を支援者が狭めてしまっていると改めて感じました。明るい未来に向けて発想力が大切だと思いました。
- ・ どうしてもリスクから考えた支援をしてしまうが、可能的未来を考えると、また違った支援になると思う。今一度、振り返る機会となり良かった。
- ・ こういう考え方もあったのかと大変参考になりました。皆さんのご意見も色々あり、また仕事に活かしていきたいと思います。
- ・ 良い経験になりました。
- ・ 限界を超えていく支援、勉強になりました。

- ・ 現状の問題と解決するための制度を結び付けがちだが、この未来デザイン手法を活用することで、可能性が広がりいいと思った。
- ・ 職種の違う方と他市の方と一つの問題を話し合えてすごく良かったです。
- ・ 良い勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 楽しかった。どう活用するかを考えたいです。
- ・ 両方の研修を通して、チームでの支援が大切だと感じました。未来から今を見るという考え方がとても勉強になりました。
- ・ このような手法があることに驚きました。ぜひ、活かしていきたいです。
- ・ 弁護士、司法書士、福祉関係者などと検討会に参加でき、あらゆる面で参考になった。

2、「良かった」と回答した方

- ・ 事例検討の新しい手法を学ぶことができ良かった。
- ・ もう少し未来デザイン手法の学びをしてからワークに取り組みたかった。どこまでを推測していいのか？要所解明を考えてみるのがとても難しかったです、初回だから仕方ないのかもしれませんが。
- ・ 今後の支援方針を立てていく上で参考になりました。特に“可能的未来”。どうしても現実的などところに視点を持って行きがちなのですが、生活していくのに希望を持つことは大切な事だと思うので、ご本人と支援者共に希望を持ちながらご本人支援に当たれたらなと思いました。未来デザイン手法の説明がもう少しあっても良かったかなと思います。
- ・ 色々な支援の方法がある。
- ・ グループメンバー各自の本手法の理解度がバラバラだったため、手法に沿った流れにならなかったため、本手法の良さが今一つ感じられなかったのが残念。手法としては良いと思うので、説明・ポイントはもっと時間を割いてもらえると良かった。
- ・ 様々な発想が出てすごく良い時間でした。
- ・ F、FGの方が上手く進めてくれて良かったです。支援はチームで行うことが必要だと思いました。
- ・ 初めてのことで難しかったです。ベストアンサーを探そうとしてしまうことを見直します。
- ・ ワークショップでは様々な意見が聞けて良かった。「未来デザイン手法」が初めてだったので、どこまで意見を出したら良いか迷うことがあった。でも新しい発見もあり、今後役立てていきたいと思います。
- ・ かける時間が少し長く、やや中だるみの雰囲気があった。
- ・ 初めての手法で難しかったです。グループメンバーの方に教えて頂いたり、同じ人の支援でも違いがあり、おもしろい内容でした。未来のターニングポイント、未来デザインをするには、頭の柔軟さが大切だと思いました。

- ・ 可能的未来で拡散した後、要所解明に現実的に落とし込んでいく作業の難しいギャップを感じた。ただ、既成概念にとらわれず、できるだけたくさんのアイデアを出すことは家族をシステムとして捉え、変化を起こしていくことにもつながるアプローチとして有効だと思う。
- ・ 時間が短くて難しかった。慣れてくると有効になるのかもしれないと思った。
- ・ 未来デザイン手法は初めて学ばせて頂きました。新たな問題解決法が学べて良かったです。ありがとうございました。
- ・ いろんな職種の人たちが集まって意見が聞けて勉強になりました。いろんな発想・考え方が大事だなと思いました。こんな研修は初めてでどうなるか戸惑っていましたが、勉強になりました。
- ・ 日頃は、事例検討をする際に理念から入るということはあまりしなかったもので、新鮮でした。これがあることでポイントがブレずにできることを気づけましたし、未来予測の考え方、特にパラダイシ的思考についてはいろんな意見が出てとても楽しかったです。
- ・ 現実的な支援ばかり考えていると支援の幅を狭くする危険性があることに気づきました。
- ・ 自分の今持っている技術や理論（経験）で収まるなというメッセージは素晴らしいと思います。一方で、毎日「本人はどうしたい？」「本人はどう感じている？」と常に問い続けている自分にとってはそれが確認できない状態で未来に思考を飛ばすのはしんどかったです。「これってただの支援者の妄想やん」「本人おいてけぼりやん」と思いながらの葛藤でした。
- ・ 要所解明の設定が難しかった。現実の中からターニングポイントを見つけるのか、カナさん発表のように想像した（パソコン技術習得）ものでも良いのか分からない。
- ・ 未来型の思考で検討を進める手法は初めてで進行が難しかったです。それぞれの支援者が日頃は考えていることかとも思いました。今後の参考にしたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 未来志向で可能性を広げるという所に魅力を感じました。また活用していきたいと思いまう。

3、「よく分からなかった」と回答した方、印なしの方

- ・ しかし他の参加者の感想を聞くと希望的未来の観点の利点を考えさせられた。
- ・ 要所解明がいまいちわかりにくく、他班の案との差が説明されても分からなかったです。

研修概要

1. 日 時 令和元年10月31日(木) 10:00～16:30

2. 会 場 飯田人形劇場

3. 参加者数 108人(市内72人、市外35人、県外1人)

4. プログラム

(1) 講演(基礎編)「権利擁護支援の基本」

講師: 上田 晴男さん

(兵庫県福祉サービス第三者評価委員会委員・西宮市権利擁護支援アドバイザー)

(2) 講演(応用編)「意思決定支援とエンパワメント」

講師: 佐藤 彰一さん

(全国権利擁護支援ネットワーク事務局・國學院大学法学部教授・弁護士)

(3) シンポジウム「後見業務実践における意思決定支援」

コーディネーター: 今井 友乃さん

(NPO法人 知多地域成年後見センター・全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

シンポジスト: 村松 将太さん(弁護士)

木下 伸二さん(司法書士)

北原 俊憲さん

(社会福祉士・ばあとなあながの運営委員長)

5. 報 告

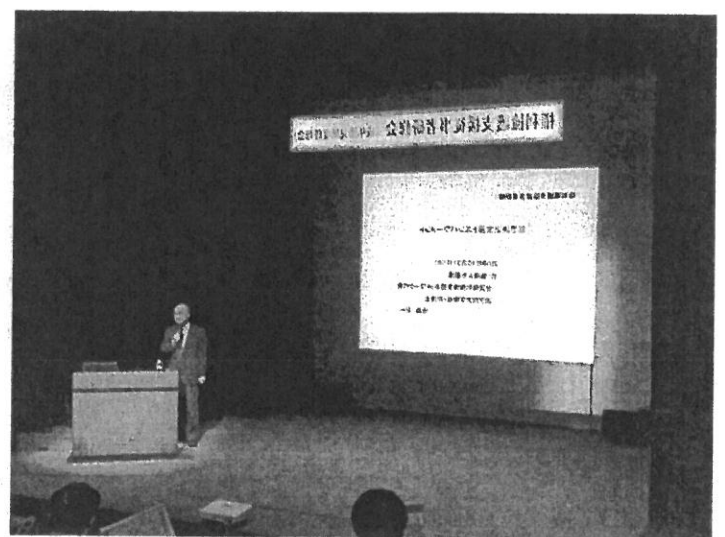
第1部の講演において、アセスメントの重要性や社会との関わりの大切さについてお話し頂いたことが、特に現場の支援者には印象的だったようです。自分の業務を振り返りたい、基本を再確認できた、迷いに対する答えがもらえた、勇気づけられた等の感想を頂きました。

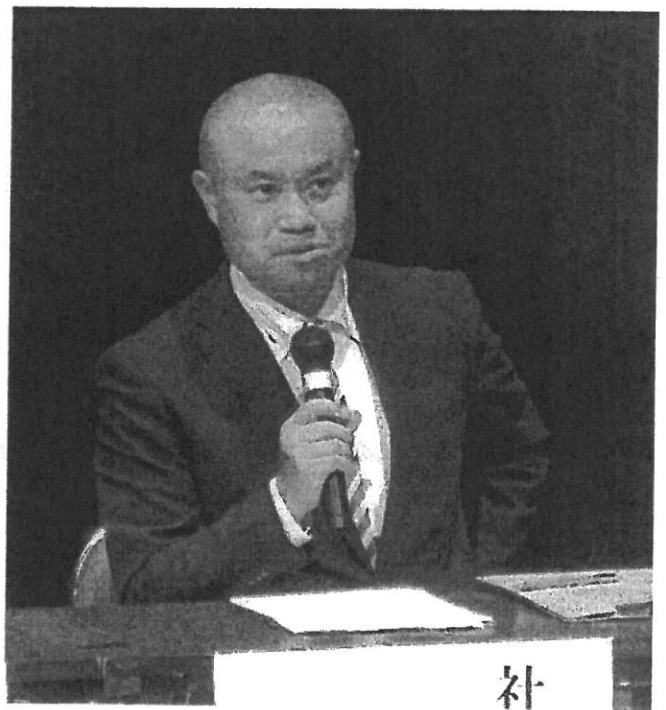
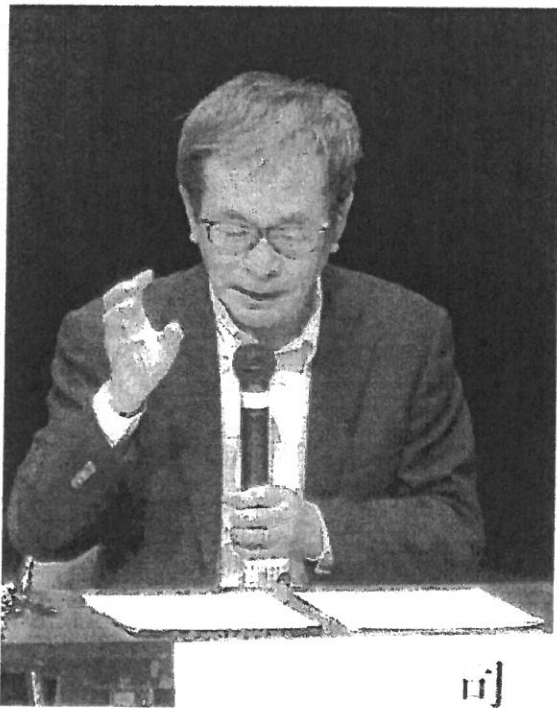
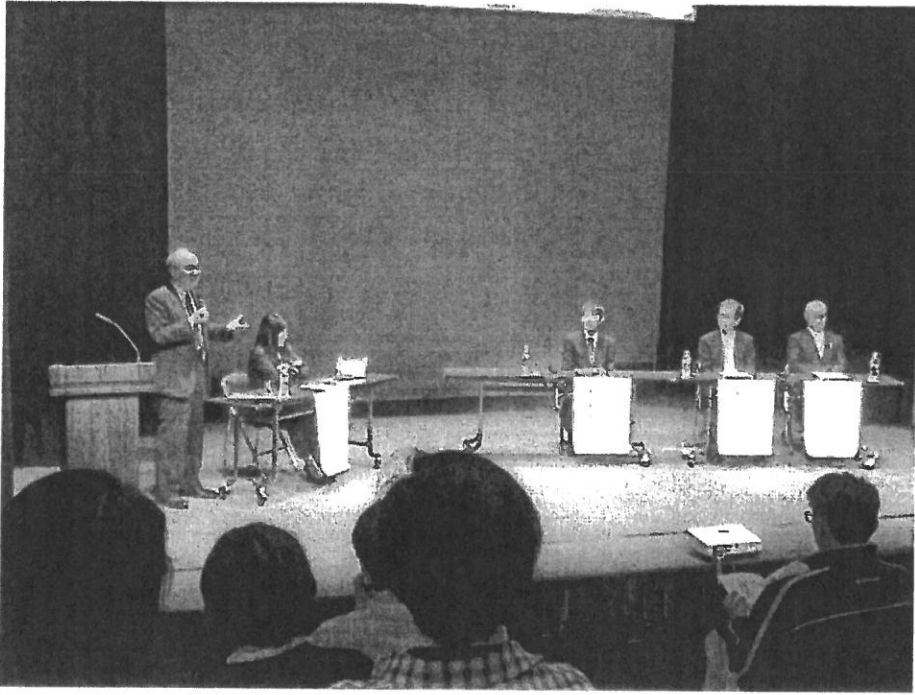
第2部の講演では、意思決定支援は、正義の理論とケアの理論のどちらかに偏ることなく、かつ正解のないプロセスである事を、国内外の事例をもとにお話し頂きました。歯科医師における意思決定支援という他業種の事例は、皆興味深く聴き入っていました。

第3部シンポジウムにおいては、実際に後見業務に携わる専門職の方々に、意思決定

支援を行う上で、上手く行ったことや困ったことを、本人の喜びや楽しみなどに絡めて発表して頂きました。実務において、物理的その他の要因により、本人の希望と現実の乖離に悩むことが多い中、本人に寄り添い考え続けることの大切さが伝わって来ました。

作成者 : いいだ成年後見支援センター 熊谷匡嗣さん





権利擁護支援従事者研修（10月31日・飯田人形劇場）

アンケート集計結果

回答数：40

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
長野県	37名	飯田市	20名	飯山市	1名
兵庫県（明石市）	1名	喬木村	4名	飯綱町	1名
無記入	2名	高森町	4名	阿南町	1名
		豊岡村	3名	阿智村	1名
		長野市	1名	無記入	2名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	3名
2、社会福祉協議会	10名
3、福祉職（高齢）	15名
4、福祉職（障害）	4名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	2名
7、その他	7名（居宅、個人、独立型社会福祉士、グループホーム、福祉職（ひとり親）各1名）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	25名
2、AS-Jホームページ	1名
3、関係機関	12名
4、友人・知人	1名
5、その他	4名（FAX2名、メール1名）

3) 講演・基礎編「権利擁護支援の基本」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	32名
2、良かった	6名
3、よく分からなかった	0名

※無記入 2名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ もう少し詳しくお聞きしたかったです。時間が短かった。
- ・ 権利擁護の基本についてまた、先生の経験をベースとした話は、興味深かった。
- ・ 今の支援は対症療法になりがち、という言葉が印象的でした。救済・保護が主になっているというのも現状でしょうが、本来の権利行使の保障が中心となる支援ができるような社会福祉士として活動していきたいと思います。

2、「良かった」と回答した方

- ・ 基本・概要・ポイントが分かり、良かったです。
- ・ 権利擁護は手間暇をかけること、どんどん関わること、本人の言動から意味や意思を読み取るアセスメントが大切なことを学んだ。
- ・ 「権利擁護支援」の基本を勉強できた。基本的に忘れてはいけないことと思った。更に深めたいと思った。
- ・ たくさんの経験をされている先生の話が聞いて良かったと思います。(Aさん、Bさんの形式で、具体的な経験談をもう少し聞ければもっと良かったと思います。)
- ・ 成年後見の話だったが、1人の利用者さんのことを知るための参考になった。
- ・ 基本的な部分を改めて整理づけることができた。
- ・ とても分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ ゴミ屋敷ケースが主でしたが、実践と事例に基づいて各スライドを説明して下さったので、理解しやすかった。上田さんのように地域に帰ってから、支援者の方々にも話せるよう努力します。
- ・ 困難事例は時間とてま、手立てを考えていけば必ず解決できるという言葉がとても心強かったです。
- ・ 本人の要望とその状況、その必要性をよくアセスメントし、社会との関わりをどう構築していくのかの基本的なところをないがしろにしないことが大事なことを改めて確認しました。いつもの支援が適当で自分勝手なものになっていることを反省しています。自分の身についていないので、練習していくしかないですが、本人や関係者に迷惑をかけないようにして権利侵害しないようにしたいと思います。
- ・ 必要な時に、必要なことを、必要なだけ、これからの介護保険制度に必要なことだと思います。
- ・ 勉強になった。
- ・ いつも納得のいかない思いを抱いていた事柄に答えをもらうことができた。困難事例への対応と自分の心の持ちようも納得できました。繰り返しお聞きしたい内容でした。
- ・ 支援の基礎を分かりやすく講義いただき、対応方法を再確認できました。
- ・ 権利擁護支援ニーズとは、の話の中で「本人の要望」とは言葉に依存しないといった内容で納得と自分の中で安心しました。常に利用者さんの言葉を尊重していますが、そう

した方が良く学んできましたし、そう言われていますが、本当にそれでいいのか、と思うこともあり、迷って悩んでいました。先生が言われたように、今の職種に向いていないのでは…と思ってもいましたが、頑張りたいと思えます、ありがとうございました。

- ・ 自分の仕事を見直し、考え直すこと、改めて学ぶことができました。
- ・ 支援ということ。権利擁護ということが分かりやすく聞くことができました。子どもの権利擁護がどんなものかももう少し聞きたかったです。
- ・ 困難事例も時間をかければ必ず解決
- ・ 支援者が目の前の困ったと思う状況をなくすというのが支援ではなく、支援を必要とする人が、困っていることは何か、またその困ってしまった原因を分析してその原因を解消するのが支援だと学びました。日頃、権利擁護業務をしていますが、今まで行ってきた認知症の人に対するケアと共通するのだなと感じました。どんな人が対象の支援・ケアでも状態に対する解決策、対応策を考えるのではなく、その原因を見極め、解決するのが支援・ケアの目指す方向ではないかと感じました。

4) 講演・応用編「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	17名
2、良かった	14名
3、よく分からなかった	0名

※無記入・欠席 9名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 支援力を高めていきたいと思いました。
- ・ 分かりやすく良かった。
- ・ 正義の理論とケアの理論の話が良かったです。今の自分がどちらの立場なのか、正解はないことを忘れず、偏っていればもう一方を思い出し、どちらも器用に使えたらいいなと思います。
- ・ 正義とケアの話ですぐ決断することは正義（正義の女神は目隠し、はかり、剣を持っている）ケアとはあれこれ考えていくことでケアという、ということが印象的でした。意思決定支援とはプロセスで、その人の生活確保する、その人を確保することができるということです。
- ・ 代行決定をせざるを得なくなるのは支援者の意思決定支援能力がないから、との意見にショックであった。実際、全くできない方も存在するわけで、本人の意思を推測せざるを得ない場面もあると思う。
- ・ 空間としての福祉、国外の内容もあり、広い視野での話が聞けて良かった。他分野（歯科）の意思決定支援の状況を知ることができた。

- ・ きちんとアセスメントをして、意思決定支援をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 正義の倫理とケアの倫理の悩みどころがどちらかに偏らず本人の自己決定の尊重と本人の最善の利益の確保を尊重して関わりたいと思います。ただ、1人で悩むのではなく、本人や関係者と一緒に本人の意思決定支援をしていきたいと思います。
- ・ 自己決定の尊重とご本人にとっての最善の利益の確保、この二つがぶつかり、支援者側が悩む。悩んで当然、追い詰められなければならない→常に迷っていることは、いつもなので、これでいいのか？と考えて仕事をしていくこともおかしくないのかもしれないと思えた。
- ・ 同じ内容の話は何度か聞いていますが、聞くたび違う解釈ができる分、自分たち支援者も成長しているのかなあと感じるができます。
- ・ 意思決定支援の意味を理解できた。再支援という言葉にこれからの方向を促された。

2、「良かった」と回答した方

- ・ 色々な捉え方があることを学んだ。捉え方の違いについて
- ・ 意思決定ができるかは、その人の判断能力を引き出す(?)支援者側の能力も関係あるということを知り自分も仕事の中で生かしていきたいことだと思った。
- ・ 実例の話は良かった。
- ・ 難しかった。
- ・ 認知症のお年寄りの施設入所について、本人の意思決定をどこまで尊重するのか等、聴きたかったです。具体的な事例をお聞きしたかったです。
- ・ 意思決定支援について現状が少しつかめました。まだまだ理解不足などところがある為、今後もこのような場に参加していきたい。

3、「よく分からなかった」と回答した方、無記入・不参加の方

- ・ 都合で聴講できませんでした。また計画していただきたい。

5) シンポジウム「後見業務実践における意思決定支援」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	10名
2、良かった	14名
3、よく分からなかった	1名(ふつう)

※無記入・不参加 15名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 事例を交えて話して頂き分かりやすかった。

- ・ 後見の経験から、それぞれの立場からのお話を聞いて良かった。貢献制度は万能ではないことを多くの人に知ってもらいたい。社会福祉士の話が長い。他の先生方のお話もバランスよく聞いたかった。
- ・ 実践活動や今井さんのコメントを聞いて大変参考になりました。皆さん工夫され、悩まれながら実践されていること、共感しました。
- ・ 本人とのコミュニケーションの意味を知ることができて良かった。
- ・ それぞれの立場から本人が困らない状況を作っていくなくてはならないことが大切かと思いました。
- ・ 成年後見受任の厳しい現状が理解できた。このような機会を多く持ちたい。周辺を支えている人たちとの協働が必要。
- ・ ばあとなあとして受任しなくてはならないかもしれないが、他の会員の皆様がやっているところを拝見し、自分にはできるのか不安です。孤独な感じを受けます。もう少しチームで取り組めると受任者も増えるのでは…。異時おゆるしを。首長申立も推進してください。

2、「良かった」と回答した方

- ・ シンポジウムで具体例が聞けて良かったです。専門家の方に関わってもらうことで意思決定支援の方向が広がっていくと思いました。
- ・ 地域での権利擁護や成年後見人の在り方、求められるものを共有できると良いと思いました。
- ・ 最後に質問された方の重度障害者の後見人については、深く考えていく必要があると感じた。
- ・ 実践・実体験に基づいた話は重みがあった。「意思決定支援」という言葉を簡単に言えないなとも感じた。後見人でも関わり方が違うことも感じた。(職種の違い?)
- ・ 実際の後見業務を伺うことができて良かったです。チーム支援の大切さも改めて確認することができました。
- ・ シンポジストに講演をされたお二人(どちらかでも)を入れてほしかったです。理論を現状に落とし込むにはシンポジストのケース紹介にどう工夫できたか等聴けたかなと思いました。
- ・ シンポジストの対応したケースを具体的に聞いた。多職種協働を言われて久しいので、様々なケースで多職種が意見や考えを共有する場は、まだまだ少ないのかと思った。
- ・ 具体的事例の話は分かりやすいと思います。その地域性や専門職による違いが分かりますね。
- ・ それぞれの職種により意思決定支援の姿勢がずいぶん違うと感じた。面会の回数にしても「話すことがないから」では、理由にならない。会わなくて意思決定支援ができるのかという問題と士業により、このような援助技術に対する研修は実施されていない

のかという課題も浮かび上がった。

3、「よく分からなかった」と回答した方、印なしの方

- ・ 意思決定支援の話の前の経験による話が参考になりました。
- ・ 利用者さんが話す言葉のどの言葉が真実かな…と言われたことに納得です。

研修概要

1. 日 時 令和2年1月31日(金) 10:00～16:00
2. 会 場 ウェスタ川越 1階 会議室
3. 参加者数 34人(市内 7人、市外 22人、県外 5人)
4. プログラム

- (1) 講義「権利擁護支援の基本」

講師：山口 正之さん

(萩長門成年後見センター理事長・弁護士)

- (2) 講義「意思決定支援とエンパワメント」

講師：山口 正之さん

(萩長門成年後見センター理事長・弁護士)

- (3) グループワーク

- 「権利擁護支援ケースの事例検討」

講師：今井 友乃さん

(NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長、
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

黒崎 豪夫さん

(社会福祉士、ケアプランいきがい相談支援専門員)

5. 報 告

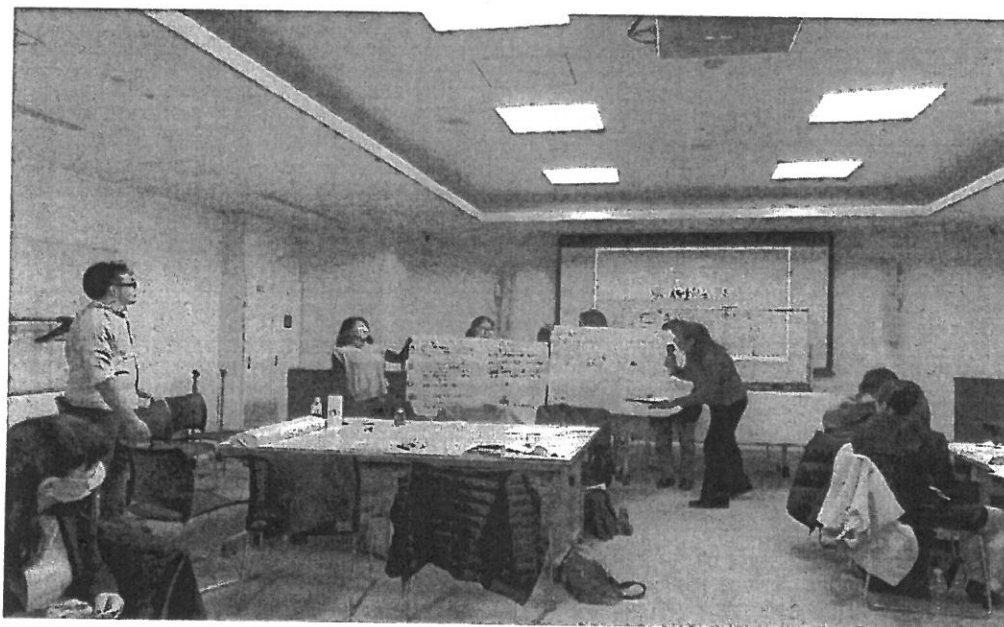
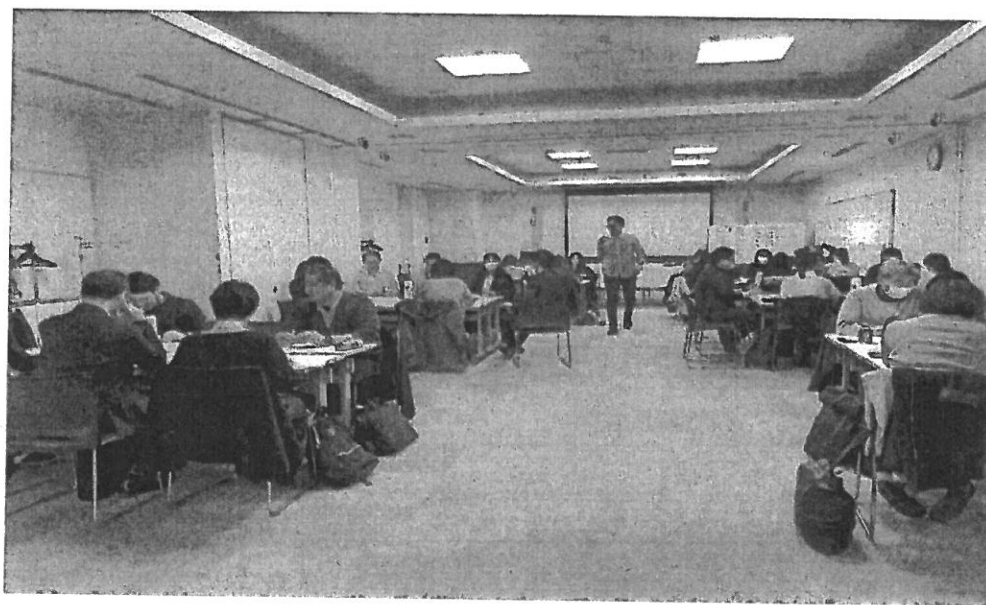
川越市のウェスタ川越で行われた今回の研修会は県外からの受講者を含め、合計34名となりました。職種として、障害分野、高齢分野が同数の参加数となり、あまり職種の偏りがなかったことと、権利擁護支援に対して非常に関心が高い方が集まり、それぞれの立場からの意見が活発に出た研修会となりました。

前半では、本人の意向を尊重し、よりよい生活を送っていくためには、自己決定の尊重、エンパワメント、また意思決定支援が必要であるということを実際のケースを交えながらご講義をいただきました。また、能力存在推定という前提のもと、意思決定支援に名を借りた代行決定や支援者が支援しやすい支援に誘導していないかなどご講義を頂き、受講者は自らの支援の原点に振り返ったのではないかと感じました。

午後のグループワークでは、実際にケースの支援を組み立てました。アンケートの意見でもありましたが、制度やサービスに当てはめるだけの支援なら簡単であるが、思いや感情なども含め本人がどうしたいのかを聞き取り、本人と一緒に取り組んでいくこと

が大切だと学びました。次年度も開催を望む声が多く聞かれました。

作成者 : 鶴ヶ島市社会福祉協議会 渡辺恵美子さん



権利擁護支援従事者研修（1月31日・ウエスタ川越）
アンケート集計結果

回答数：31

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
埼玉県	27名	川越市	5名	鶴ヶ島市	7名
		春日部市	3名	さいたま市	2名
		その他市	10名		
岩手県	1名	花巻市	1名		
長野県	1名	中野市	1名	無記入	1名
神奈川県	1名	横浜市	1名		

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	0名
2、社会福祉協議会	2名
3、福祉職（高齢）	10名
4、福祉職（障害）	10名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	2名
7、その他	7名（居宅介護事務所、包括 等）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	7名
2、AS-Jホームページ	3名
3、関係機関	11名
4、友人・知人	6名
5、福祉新聞	0名
6、全社協メールニュース	0名
7、その他	4名（事務所へのFAX、FB 他）

- 3) 講義 「権利擁護支援の基本」「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・感想をお書きください。

1、大変良かった	23名
2、良かった	7名
3、よく分からなかった	1名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 普段お話を伺うことのない弁護士の立場を交えた話はとても参考になった。
- ・ 講師のその人らしいお話だった事が印象的だった。やまゆり園をテーマにし、被害の障害の方が主人公の 辺見 康「月」という小説がオススメです。
- ・ 障害分野の権利擁護について、とても分かりやすいお話でした。個人的には私自身、兄が難聴である中で育ち、兄を障害者に行っているのは世の中だと思って生きてきました。「彼らの感性や命に障害はない。」との言葉がとても心に残りました。
- ・ 「私たちはこの世を見るために聞くために生まれてきた。何かになれなくても生きる意味はある」この言葉、いいなあと思いました。
- ・ 意思決定を尊重するが、難しい場合は、SW側が決めていくこともある。その際の再アセスメントが必要。障害者は健常者に近づけるように努力しているのに価値観を押し付けはならない。障害者は「自分は社会の役にたっている」と考えている事に気づいた。
- ・ もっと山口先生の話がききたかったです。
- ・ 現場で働いている者として、改めて虐待について考える事ができた。この考えを今後生かして生きたい。
- ・ 久しぶりに自立、自律から先の話が聞けてよかった。
- ・ 社会福祉士として、相談支援専門員として、人として倫理観をしっかり持っていないと仕事ができないと思いました。主体的権利擁護のお話を分かりやすくお話いただき、自らの専門性を高めていけるよう、業務に活かしていけるよう、日々の努力を積み重ねていこうと思います。
- ・ とてもよいお話がたくさんあり、メモしきれないのが残念でした。パワポ内容を資料として頂けたら嬉しかったです。
- ・ もっと時間をとっていただき、より詳しく話を聞きたかったなと思います。「人権」「権利擁護」の考え方、捉え方を色々な角度から考えるきっかけを頂いたように思います。聞いた話を明日以降でどの様に自分の職場に持ち帰るか考えています。
- ・ とても分かりやすくてよかった。
- ・ 意思決定をしているつもりになっていたが支援しやすさや支援者のための動機付けになりやすい。対象者を誘導している自分の支援の仕方に気づかされました。
- ・ 最近、職員優先の支援が多く感じる。職員のやりやすい介護になっている。一度講義を受講してみたかったので意義があると思いました。

- ・ 話が分かりやすく、自己への反省とともに気持ちを新たにして利用者本位での支援という視点を見つめ返せた。特に誘導の問題。
- ・ 仕事の説明は現場で起きていることをロジカルに整理していただいたので納得できる場所が多かった。
- ・ 一言で「権利擁護」と言っても支援者側の思いが強すぎてもいけないし、本人の言う通りでもいけない。常に考え悩みながら最善を目指す事は大事だと思いました。
- ・ 根源的な話を率直にしてくれて、深く考える事ができました。
- ・ ケアマネが専門職であり、権利擁護支援は今まであまり馴染みなかったが、今回の研修は分かりやすく知識を習得する上でとても勉強になりました。
- ・ 原点に戻って、見つめなおすといった気持ちです。普段の環境の中で慣れてしまって自覚できなくなっている事があることを戒めにして仕事に戻りたいと思います。
- ・ 全ての人に意思決定能力があることを常に頭に持ち、その人の強みに目をつけていることが大切だと思った。
- ・ 「判断能力」と「意思の決定能力」は別であるという言葉が印象に残っています。ただ、判断能力がなくても本人の意思はある。その意思をどの様に尊重していくか、支援につなげるかを支援者は意識しなければならないと感じました。さらに、「本当の人間は依存しあう関係。皆が依存しあっている。」という言葉も印象に残っています。今、高齢者の方など皆が「誰かに迷惑をかけたくない」という思いが強い。そうした中で、この考えが広がる事で「相互で支えあう。」ということが進むと感じました。

2、「良かった」と回答した方

- ・ スライドが行ったりきたりして少し混乱した。
- ・ 丁寧な資料ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。
- ・ 他の方からの引用が多かったように思いました。先生の考えをもっとお聞きしたかった。
- ・ 山口先生のお話を書き留めたいのですが、能力不足で間に合いませんでした。PPの資料をご用意いただけるとありがたいと思います。「意思決定支援」が「本人の意思決定を支援する」と「意思決定を代行する」との両方がある事を改めて意識しました。本人の意思と周囲が考える最善の利益、意思決定とは何だろうと深く考えさせられます。

3、「よく分からなかった」と回答した方、印なしの方

- ・ 記述なし

- 4) グループワーク「権利擁護支援ケースの事例検討」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	20名
2、良かった	9名
3、よく分からなかった	2名

1、「大変良かった」と回答した方

- ・ 地域によって変わることがあるというのは発見でした。文化的な背景も大切ですよ。物語を一人で見る事、頭ではそうだと思っても、目の前に現れた現実だけで物事を考える癖が自分にあるなと感じました。
- ・ Bさんに対して、制度を当てはめるだけなら簡単だが、まず全体像を確認する事で本質的な問題を考えた事が良かったと思う。
- ・ グループワークは他の方の意見が聞けて勉強になりました。様々な人と話し合いを進めていくことは大変だった。
- ・ 事例をマイナスの部分だけを捉えるのではなく、良い面を何か考えていく事ができた事がよかった。
- ・ 事例検討における見立ての違い〔推測〕がとても勉強になりました。アセスメントの視点の多様性〔価値観の違い〕が面白かった研修でした。マイナスの要因をプラスの要因として見立てられるようになりたいと思います。ありがとうございました。
- ・ グループワークで様々な視点や意見が伺えたこと、様々な視点があるということを改めて気づかされたこと。講師のコメントが大変多くの気づきを与えていただいた事が大変勉強になりました。
- ・ 色々な職種の方とお話しながら事例検討ができて大変参考になりました。自分の見えていない理解が不十分なところの意見を聞くことができてよかったです。
- ・ これまでのグループワーク（個人的に自分が参加したもの）に比べて違ったものの見方ができました。様々な役割をされている方と同じグループで楽しく参加できました。
- ・ 事例検討でグループの人の色々な意見や考えがあり、私も支援する中でとても勉強になりました。とても充実した時間になりました。
- ・ 色々な職種の人の意見を聞いてよかった。
- ・ 障害分野の方と交わる機会が普段はなく、様々な視点が参考になった。また勉強したいと思います。
- ・ 具体的で、皆で考える中で色々自分が気づかないことが見えてきました。BPSモデルを使って整理してみたいと思います。
- ・ 他の事業所の専門職の方々と話が出来、貴重な話をしあう事ができとてもためになりました。
- ・ 話し合う、知恵を出し合う、そのこと自体も権利擁護とお話があったことを実感しまし

た。

- ・ 現ワーカーの方たちの支援の見立てや支援を考える視点等を実際に見て学ぶ事ができとても勉強になりました。
- ・ まだ、学生であるため現場で働き経験が多くある専門職の方と共にグループワークする事で、まだない考えや支援のあり方を学ばせていただきました。それぞれ働く現場が違うため、それぞれの強い分野からの視点から意見をいただき様々な意見がありそこから事例の達成目標に向けて1つの意見へとまとまる過程を拝見させていただきました。事例検討の必要性をものすごく感じました。

2、「良かった」と回答した方

- ・ 色々な角度から物事を見る事ができた。
- ・ 事例解説はみんな疲れて聞いていなかったように見えた。
- ・ 最後のグループの発表でストレングスに着目していた点がとても良かった。コミュニティソーシャルワークそのものだと思った。今後自分が活動する際にもストレングスの視点を常に持ちたいと思う。
- ・ 知識が足りなくて難しかったが、回りの意見などを聞きながら進めることができた。事例を読むだけでは分からない部分などの意見を話すことができよかった。
- ・ 難しかったです。〔見立て組み立て〕ストレングスアセスメントを意識して、今の仕事でできる事に活かして生きたいと思います。
- ・ 支援方法は多様に渡りますが、利用者本位に気を付けていきたいと思いました。

3、「よく分からなかった」と回答した方、印なしの方

- ・ 異職種なので自分目線が全く違った。
- ・ 普段から関心のある分野もあり想像するしかないところも多かった。BPSモデルは整理手法として参考になった。